



高円寺阿波おどり60周年によせて

60周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。
 昭和32年に「高円寺ばか踊り」で始まった高円寺のお祭りが、
 山あり谷ありの様々な歴史を経て、今や、1万人の踊り手が舞い
 踊り、100万人の観客が熱狂する、東京を代表する夏の風物詩に
 まで成長したこと、大変、誇らしく思います。この成長を陰から支
 えてこられた地元商店会や町会・自治会の皆様をはじめ、関係
 する多くの方々に厚く御礼申し上げます。
 商店街事業として始まった東京高円寺阿波おどりは、本場徳島との
 交流はもとより、今では国内ばかりでなく世界の国々の皆さん
 との交流も盛んになるなど、大きく成長いたしました。
 東京高円寺阿波おどりが、世界に誇る伝統芸能として益々発展
 していくことを祈念し、お祝いの御挨拶とさせていただきます。

杉並区長

田中 良



高円寺阿波おどり連協会

会長 **平野 治彦**

高円寺阿波おどり60周年を、心よりお祝い申し上げます。
 昭和32年、地域活性化・町おこしの一環として暗中模索の中
 スタートした「高円寺ばか踊り」。
 その後、本場徳島の存在を知り、“本場に学べ”を合言葉に「高円
 寺阿波踊り」と名を改めて活動が本格化。商店主やその家族、また
 従業員らで結成された“連”は下より、発展を続ける中で独立連が
 続々と誕生しました。
 昭和50年、各連との親睦を深めるべく誕生したのが、現高円寺
 阿波おどり連協会の前身の高円寺阿波踊り連長会でした。
 高円寺阿波おどり連協会は、高円寺阿波おどりの発展と共に成長
 を続け、お陰様をもちまして、一昨年に発足40周年を迎え、所属
 連31連を数える、高円寺阿波おどりの中核を成す組織に発展
 致しました。これもひとえに「高円寺ばか踊り」を誕生させ、そして
 育てた数多くの先人達、長きにわたり携わって頂いている各商店
 街、各地域の自治会、さらには杉並区、そして本場徳島の皆様
 のお陰でございます。高円寺阿波おどり連協会は、この先の
 70年、いや100年を目指しまして、高円寺阿波おどりの
 さらなる発展に尽力していく所存でございます。
 改めまして、祝高円寺阿波おどりの60周年、高円寺に感謝!!



高円寺阿波おどり60周年によせて



東京高円寺阿波おどり

60周年記念イベント

『東京高円寺阿波おどり60周年記念祝賀会』開催

2017年7月6日、新宿京王プラザホテルエミ
ネンスホールにて、60周年記念イベントと
して、記念祝賀会を開催いたしました。



高円寺ばか踊りとして産声を上げた東京高円寺
阿波おどりが60周年という歴史を紡いで来ら
れたのも、地域の皆様、行政・警察・消防・交通
機関の皆様や、その他ご支援頂ける多くの方々
のおかげです。

これからも安心・安全を第一に皆様に愛される
イベントを目指して精進して参ります。



『語る 高円寺阿波おどり』開催

2016年6月23日(木) 座・高円寺2において、高円寺阿波おどりの歴史を語り伝えていこうという
会を開催いたしました。

会場には地元の商店街・町会関係、共催の杉並区、後援の東京都のほか各地の阿波踊り大会主催者の
皆さん、阿波おどり連参加者にお越し頂きました。

第一部は高円寺阿波おどり振興協会の代表がパネラーとして登壇し、高円寺阿波おどりの始まりから、
広がり、組織の変遷についてを語り、第二部は高円寺阿波おどり連協会の代表者が連協会の成り
立ち、海外公演、本場徳島との関係、チャリティ公演について語りあいました。



そして最後は連協会合同連による舞台踊り
も披露され、華やかに幕を閉じました。

当日の様子はJ:COMチャンネル(地デジ
11ch)でも後日ご覧頂くことができたため、
多くの方に高円寺の阿波おどりの歴史
をお届けできたのではないかと思います。



◆高円寺阿波おどり連協会結成40周年記念イベント

『サイパン公演』開催

2016年7月、高円寺阿波おどり連協会は結成40年という節目の年に、サイ
パン公演を実施致しました。

現地では東京天水連が2007年にサイパン支部を立ち上げており、阿波
おどりの素晴らしさをサイパンの地で発信し続けています。

今回のサイパン公演では高円寺連協会合同連とのコラボレーションも実現。ひたむきにそして目を
輝かせて踊るサイパンの子供たちの姿に参加者一同大きな刺激を頂きました。

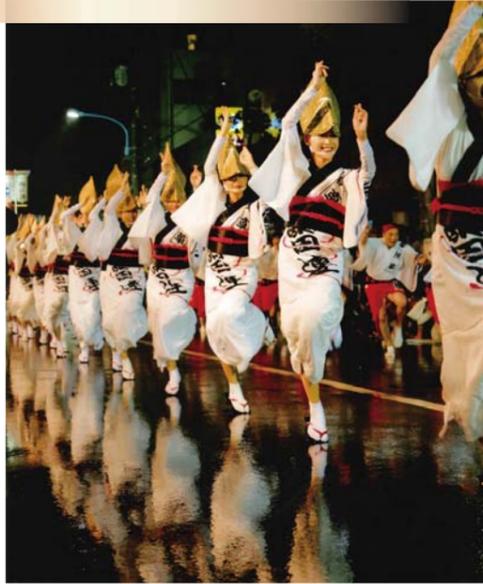
7月4日には独立記念パレードにも参加し、多くの方に阿波おどりの魅力を伝えてきました。そして、
今までの実績を評価され、高円寺阿波おどり連協会がマリアナ諸島観光大使に任命されました。



第60回 高円寺阿波おどり

フォトコンテスト

杉並区長賞



記念すべき第60回東京高円寺阿波おどりの
フォトコンテスト受賞作品をいくつかご紹介
します！

テーマは「夏の喝采、彩る笑顔」でした！

「清艶」 三田和広さん

笑顔の女性を主体にして、第60回大会の特長である
雨を、路面の映り込みで上手に表現しています。

東京高円寺阿波おどり振興協会 理事長賞



「阿波の舞」 庄子裕史さん

踊り手の満面の笑顔と、観ている方達の喝采を捉え
ています。踊りの躍動感も見事にえています。

優秀賞



「熱波」 小島修司さん

「よっ！待ってました！」 八咫鳥さん

名友会

高円寺阿波おどり60周年によせて

2013年、高円寺阿波おどり連協会の歴代会長、また所属各連の会長(参加は任意)により、
高円寺阿波おどり連協会、さらには高円寺阿波おどりの発展に寄与すべく、連協会の外郭
団体として誕生しました。

代表幹事

杉谷宗彦 (江戸っ子連 会長)



JR高円寺駅北口に位置する高円寺銀座商店会(現・高円寺純情商店会)が、高円寺
阿波おどりに参加したのは昭和42年(1967年)。長年の懸案であったJR中央線が
“高架”となり、南北の商店街がいわば陸つづきになった時で、昭和32年のスタート
から10年遅れであった。とはいえ早や50年経過しており、私も50年阿波おどりに
係わっていることになる。

昭和56年(1981年)、現場で動く「連」の組織として、高円寺阿波おどり連協会が
設立された。そして平成25年連長経験者の親睦会として名友会が発足した。

「老兵は死なず ただ 消え去るのみ」はマッカーサー元帥の名言であるが、名友会
は「老兵は死なず まだまだ がんばる」わけである。

浅賀信夫 (菊水連 会長)

あっという間の60年。白のランニングシャツに半ズボン、帯の代わりに荒縄で
踊っていた当時は懐かしく思い出されます。その頃は踊り子もまだ少なく、
応援してくださるお客様一人ひとりに喜んでもらうために必死でした。

自ら握手を求めたり、わざと飴や飲み物をもらったりと、今では考えられな
いこともやってきました。振り返ってみれば、私のとぼけ踊りの原点は、その
恥ずかしさを乗り越えようとしたことにあるのかもしれない。

高円寺で生まれ半世紀以上、阿波おどりに関わらせていただき「感謝」の
ひとことです。これからも100周年、200周年と素晴らしい文化として継承
して行って下さい。60周年おめでとうございます。



渡辺次郎 (和楽連 会長)



連長を経て会長となった一部のメンバーにより構成する『名友会』。
特に目立った活動をしている会ではありませんが、本番には栈敷での
運行、座・高円寺阿波おどりの司会や『おじゃま連』等々のサポート
など、今までの経験を活かし高円寺阿波おどりを陰から支える側と
なって本番に携わっています。これからも、ますます進化していく
であろう高円寺阿波おどりを安全で安心に愉しめる場であるよう
一同、尽力に努めたいと思っております。



東京高円寺阿波おどり大会が60周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、400年の歴史をもつ徳島市の「阿波おどり」は、今では徳島のみならず、全国各地に踊りの輪を広げ、日本を代表する世界に誇る「祭り」に成長しております。東京高円寺阿波おどりにおかれましては、ご関係の皆様のご長年にわたる熱意と努力により、現在では、1万人の踊り子と、100万人の観客が躍動する、東京都の夏の風物詩に発展されておりますことに、深く敬意を表する次第でございます。

今後も「阿波おどり」のさらなる発展に向け、引き続き力強いご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京高円寺阿波おどりが、ますます飛躍・発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

徳島市長

遠藤 彰良



一般社団法人 徳島新聞社

理事社長 米田 豊彦



東京高円寺阿波おどりが60周年を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。

近年、地域活性化のイベントに阿波踊りを取り入れる動きが広がっています。中でも、2日間で100万人の人出がある高円寺の存在感は大きく、徳島の宝である阿波踊りを国内外に発信する拠点として重要な役割を果たしてくれています。

驚くのは、若者らが年間を通して踊りの技術を磨き、8月の本番で大輪の花を咲かせている姿です。阿波踊りを愛し、心ゆくまで乱舞を楽しむ光景には、感動すら覚えます。今後とも、徳島とのつながりを密に、次世代への踊り文化の継承をお願いいたします。

結びに、NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会をはじめ、関係者の皆様のご健勝・ご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。